

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320026

研究課題名(和文) 基礎資料に基づく南方熊楠研究の学際的・国際的展開

研究課題名(英文) Interdisciplinary and International research on Minakata Kumagusu based on his archives

研究代表者

松居 竜五 (Matsui, Ryugo)

龍谷大学・国際文化学部・教授

研究者番号：40238952

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,200,000円、(間接経費) 4,260,000円

研究成果の概要(和文)：南方熊楠の基礎資料に関して、和歌山県田辺市の南方熊楠顕彰館を拠点とした研究活動をおこなった。また東京および関西で月1回のペースで研究会を開催し、毎年8月の顕彰館での合宿研究会と合わせて関連の研究者の組織化をおこなった。その成果として『南方熊楠とアジア』(2011年)、『南方熊楠大事典』(2012年)、『南方熊楠英文論文〔ノーツ・アンド・クエリーズ〕篇』(2014年刊行予定)などを刊行し、今後の研究の基盤を作ることができたと考えている。

研究成果の概要(英文)：We have achieved the research on the first hand materials of Minakata Kumagusu preserved in his Archives in Tanabe, Wakayama. We also organized the monthly research meetings in Tokyo and Kansai as well as a joint annual conference in Tanabe in every August. We have published as results, "Minakata Kumagusu and Asia" (2011), "Encyclopaedia on Minakata" (2012), "English essays of Minakata Contributed to Notes and Queries" (2014), etc., which we believe to provide the fundamental information to the research on Minakata in future.

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：思想史

キーワード：南方熊楠 民俗学 仏教学 比較文化 博物学 生態学 大英博物館 進化論

1. 研究開始当初の背景

南方熊楠(みなかた・くまぐす、1867-1941、以下主に「熊楠」と表記)は、幼い頃から博物学に志し、10代前半の頃に『本草綱目』や『和漢三才図会』などの伝統的な東アジアの本草学書を筆写した。16歳で上京し、東京大学予備門に入学したが、19歳で退学し、富裕であった父の許しを得て海外遊学の決意を固め、1886年に日本を離れ、米国・英国で十数年間の学問的研鑽を積んだ。

サンフランシスコに着いた熊楠はパシフィック・ビジネス・カレッジで語学などを学んだ後、ミシガン州ランシングのアーバーの農学校に入学するが、一年間で退学し、その後は自学自習により西洋近代思想と自然科学を学んだ。フロリダ・キューバでの植物採集の経験を経て、1892年にロンドンに渡る。翌年、26歳の時にロンドンで *Nature* 誌に「東洋の星座」を発表し、その後 *Notes and Queries* 誌への投稿も開始、生涯に375本の英文論考を発表した。またロンドンでは、大英博物館において東洋学、人類学を中心とした稀覯書の筆写をおこない、52冊の「ロンドン抜書」を作成している。

1900年に33歳で帰国してからは、植物学と民俗学の分野で活躍した。真言宗の僧侶であった土宜法龍に対する手紙の中で示された仏教的世界観と近代科学の融合を図った斬新な思想は、「南方マンガラ」と称されている。1905年頃から田辺に定住して結婚し、家庭を持った。1909年以降は明治政府の神社合祀令に対する反対運動をおこなっているが、エコロジーという言葉を用いた自然環境の保全を訴えた先駆的な活動として評価されている。この頃から柳田国男との文通を開始し、『郷土研究』や『太陽』などに民俗学の論文を発表するようになった。また、「田辺抜書」と呼ばれる漢籍や仏典の筆写ノート60冊を残している。1929年には昭和天皇の田辺行幸に際して、当時の民間人としては異

例の生物学に関するご進講をおこなっている。1941年に田辺市中屋敷町の自宅で死去した。

こうしたユニークな学問活動にもかかわらず、大学や研究機関に所属していなかった熊楠の学問的業績は、没後は十分に後継されることなく、その資料は多くは、未整理のまま和歌山県田辺市の旧邸などに放置されていた。1965年に和歌山県白浜町に南方熊楠記念館(以下主に「記念館」と表記)が設立され、資料の一部が移管されたが、展示中心の施設であり、本格的な資料調査はおこなわれていない。

一方、出版に関しては、1950年に乾元社版全集12巻、1971~75年に平凡社版全集12巻、それ以降補遺的な著作群が公刊されているが、これらを総計しても、既刊分は熊楠が書いた文章全体の半分程度に過ぎない。日記、草稿・書簡・ノート・抜書・蔵書・遺品・標本などの資料の多くが、没後の長い期間、文字通り手つかずのままに残されていた。この背景としては、熊楠の肉筆が膨大かつ難読、時に数か国語にわたるために翻刻と読解がなかなか進まなかったことが、大きな原因として挙げられる。

本科研の申請者と共同研究者を中心とするグループによって、資料所有者であった長女の南方文枝氏の依頼と田辺市の援助を受けて、1992年頃から南方熊楠旧邸の調査が始まった。その後計6度にわたる科学研究費(1993~1994年度奨励研究A、1996~1998年度基盤研究A、2000~2003年度基盤研究B、2004~2007年度基盤研究A、2008~2010年度基盤研究B、2011年度~2013年度基盤研究B、1996-1997年を除いていずれも松居が研究代表)などを通じて基礎研究を充実させてきた。1999年から2006年にかけては、毎年『熊楠研究』を刊行し、資料調査に基づく関連論文や資料の発表をおこなった。

こうした成果を基に『南方熊楠邸蔵書目

録』(2004年)『南方熊楠邸資料目録』(2005年)を刊行し、2006年に旧邸隣地に田辺市により南方熊楠顕彰館(以下主に「顕彰館」と表記)が設立された。この顕彰館は、現存する南方熊楠資料の約8割程度(残り1割が記念館、1割が個人などの所蔵と推定)を、南方文枝氏より譲り受けて所有する施設で、翻刻成果や『熊楠ワークス』(年2回)の刊行を行う他、講演会、奨励研究事業、展覧などを組織している。こうした顕彰館の学術活動は、本科研のメンバーと地元の研究者を構成員とする学術部において統括している。

一方、海外に残された熊楠の関連資料としては、主にロンドンの大英博物館、ヴィクトリア・アルバート美術館が挙げられる。また、サンフランシスコ、ランシング、アナーバー、ロンドンには熊楠の下宿跡などのゆかりの地も多く存在し、松居はこうした足跡に関する調査を続けてきた。こうした資料は、顕彰館や記念館などの国内の資料を補完するものとして、これまでの科研などを通じて成果を発表してきている。

また主著「十二支考」の中国語訳が出版され(2004)、欧米圏からの関西や東京での研究会への参加が見られるなど、南方熊楠に対する国際的な認知度も、近年上がりつつある。こうした情勢を受けて、本研究の共同研究者を中心として、平成19年12月に「孫文と南方熊楠」を開催(中国、韓国、オーストラリアからの参加者を含む)平成22年2月にMinakata Kumagusu and Londonをロンドン大学東洋アフリカ研究所において開催(討論者のうち日本人3名、英国人4名、フランス人1名)しており、海外の研究者との交流の基盤を構築しつつある。前者の成果は『孫文と南方熊楠』(汲古書院、2007)および『孫文と南方熊楠』(孫文研究会、2007)として日本語と中国語で発表済みであり、後者もロンドン大学宗教研究所ニューズレターに概要を報告済みで、全体に関しては科研報告書と

して2011年3月に英文で刊行した。また2011年2月にハーヴァード大学でおこなわれる龍谷大学人間・宗教・科学ORC主催の研究会において、松居は南方熊楠に関する報告をおこなっている。

2. 研究の目的

本研究では、南方熊楠に関するこれまでの資料調査に基づいて、これまでの基礎的な研究を総合し、今後の発展的な研究につなげるための基盤を築くことを方針とした。そのため、以下の項目について重点的に研究をおこなった。

これまで未刊行の資料、特に1924年分～1941年分の日記および小畔四朗、上松翁などに宛てた重要書簡の読解と編集作業を進める。引き続き東京・関西・田辺の三拠点を中心とした日記の翻刻作業を継続して進める。日記の1913～1924年分については、平凡社東洋文庫全4巻として刊行することですでに平凡社側とは合意済みであり、第1巻分については平成22年度中に入稿予定となっている。このための原稿作成作業を、本研究のRAを中心として進める。また、これまで刊行してきた平沼大三郎、小畔四郎宛てに加えて、上松翁宛ての未刊行書簡の翻刻、編集作業を進め、南方熊楠顕彰館資料叢書として順次刊行する。

「ロンドン抜書」「田辺抜書」に関する研究会を立ち上げ、内容に関するデータベースの構築を目指す。また、旧南方熊楠蔵書に見られる多量の書き込みに関して、共同研究者を中心として読解を進め、上記の研究会などでの発表をおこなう。

南方熊楠に関する海外での資料について極力収集し、顕彰館を中心としてこれまで調査を進めてきた資料との比較対照作業をおこなうことによって、より多角的な南方熊楠の研究を進める。

上記のような基礎的な資料研究に基づい

て研究を進め、書籍および論文の刊行のかたちで発表をおこなう。まず、英文資料については、すでに『南方熊楠英文論考〔ノーツ・アンド・クエリーズ〕誌篇』に関してすでに集英社と刊行について合意している。この書籍では、翻訳だけではなく訳注、補注を充実させ、さらに誌上での議論の経緯や日本語著作との関係について詳しく紹介したものとして刊行する。また、『南方熊楠大事典』の刊行について勉強出版と合意しており、本研究の共同研究者や RA を中心とする執筆者の協力により、これまでの研究の集大成として、今後の基盤となる書籍を編集する。1914 年分～1923 年分の日記に関しては、すでに平凡社と同社の東洋文庫 4 冊程度として刊行することについての合意しており、そのための編集作業を進める。その他の刊行物に関しても、南方熊楠顕彰館を中心として、企画展やシンポジウム、講演などのかたちで研究成果の発表をおこなう。こうした機会を通じて、共同研究者・RA を中心とする関連研究者の情報交換をおこなうとともに、あらたな研究者の掘り起こしをおこなう。

3. 研究の方法

2011 年 4 月の申請採択の内定後、4 月に田村義也、岸本昌也、志村真幸の 3 名の RA を雇用した。また、和歌山県田辺市の南方熊楠顕彰館および白浜町の南方熊楠記念館と連絡し、協力体制を整えた。

2011 年 4 月から東京と関西における研究会をほぼ毎月のペースでおこない、未解読の日記資料に関する翻刻を中心とした研究活動をおこなった。これらの研究会には、共同研究者および RA が適宜出張して参加している。これらの研究会によって 1927 年分および 1930 年分の日記の読解を進めた。また、2013 年度中に刊行された武内善信『闘う南方熊

楠』、飯倉照平『南方熊楠の説話学』の合評会を、東京の研究会において 2014 年 1 月および 2 月におこなった。

2011 年、2012、2013 年のいずれも、8 月初旬に和歌山県田辺市の南方熊楠顕彰館において合宿研究会をおこなった。この研究会には、本研究の共同研究者および RA を含めて、毎回計 20～30 名程度の関連の研究者が参加し、「田辺拔書」「ロンドン抜書」の読解に関する発表、英文論文翻訳に関する発表、関連書籍の合評会、簡単なシンポジウムなどをおこなった。

2011 年 4 月より 12 月まで、ほぼ毎月のペースで松居が東京に出張して、『南方熊楠大事典』編纂のための研究会をおこなった。この研究会には、RA の田村もほぼ毎回出席している。この結果として 2012 年 1 月に『南方熊楠大事典』を勉強出版より刊行、5 月 3 日に執筆者の半数以上が集まって合評会をおこない、この事典を基盤とした今後の研究の展開に関して議論した。

また 2011 年 4 月より 2014 年 2 月まで一・二ヶ月に一度程度、松居 RA のおよび志村が東京に出張し、『南方熊楠英文論文〔ノーツ・アンド・クエリーズ〕誌篇』の作業を進め、粗稿を完成した。これに関連して松居は 2012 年 3 月にロンドンに出張し、熊楠の足跡に関する資料の収集をおこなった。

南方熊楠顕彰館における学術、イベントとしては、2011 年 7 月から 8 月にかけて「南方熊楠のアメリカ時代」展を松居が中心となり組織し、8 月 6 日に関連のシンポジウムをおこなった。2013 年 3～5 月には、松居が中心となり「南方熊楠と同級生たち」と題した展観を組織し、4 月 28 日に関連のシンポジウムをおこなった。2013 年 9 月に和歌山県田辺市の南方熊楠記念館において南方熊楠旧蔵書中の『和漢三才図会』に関する調査をおこなった。この調査には松居および RA2 名が参加し、その後 2014 年 3 月から 5 月にかけて顕

彰館において開催された和漢三才図会展に成果を用いた。また、関連のシンポジウムを4月29日におこなった。

4. 研究成果

2011年7月に勉誠出版より『南方熊楠とアジア』を刊行した。この書籍は、松居およびRAの田村が編集したもので、共同研究者の奥山、橋爪、安田、連携研究者の小峯、千本およびRAの志村、岸本が論文を執筆している。8月5・6日に和歌山県田辺市の南方熊楠顕彰館において合評会を開催した。この合評会には、松居の他に研究分担者の奥山、安田、橋爪、連携研究者の小峯・千本、およびRAの田村・志村が参加した。同書には、インド・デリー大学教授のタンカ氏、中国精華大学研究員の高陽氏も寄稿していただき、南方熊楠の研究をアジア圏に広げる試みをおこなっている点に特色がある。

2012年1月には、勉誠出版より『南方熊楠大事典』を刊行した。これは全800頁に渡り「思想・生活」「生涯」「人名録」「著作」「資料」「年譜」の六部構成で南方熊楠の全体像に迫ったものであり、研究史的にも一時代を画すものとしての評価を得ることができた。2012年5月6日には、この事典の合評会をおこない、内容に関する意見交換や訂正部分に関する確認作業をおこなった。2012年度秋頃の刊行(集英社)を見込んでいる。

4月より3月までほぼ毎月田村が関西に出張し、東京と関西でおこなわれている翻刻のための研究会に参加して、両者の調整をおこなった。田村は南方熊楠顕彰館にもほぼ月ベースで出張し、岸本とも協力して『南方熊楠・小畔四郎往復書簡(四)大正十三年』を顕彰館叢書として刊行した。この他、平凡社東洋文庫から『南方熊楠日記』1914~15年分を刊行する予定で作業を進めているが、この分については全体的に遅延気味である。

本研究の成果については、各種学会などで

も精力的に発表している。特に2013年9月に京都でおこなわれた南方熊楠ゼミナールにおいては、松居、安田およびRA2名が、主にこの翻訳作業に関連した本科研の研究成果発表をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計18件)

松居竜五「F・V・ディキンズ、熊楠間の交遊と英訳『方丈記』の執筆」『熊楠 Works』41号32-35頁、査読無、2013年

奥山直司「河口慧海と南方熊楠」

『熊楠 Works』4号39頁、査読無、2013年

奥山直司「河口慧海 漂泊の思いに動かされた人」『怪』39号234-235頁、査読無、2013年

奥山直司 書評：白須浄眞『大谷探検隊研究の新たな地平 アジア広域調査活動と外務省外交記録』『書論』39号209-210頁、査読無、2013年

奥山直司「河口慧海とはどんな人? 大蔵経を求め仏教再生を願った改革者・名僧の遺産 河口コレクション」『週刊朝日百科 仏教を歩く改訂版』28号12-15頁、18-19頁、査読無、2013年

奥山直司 書評：融道男著『祖父 融道玄の生涯』『高野山時報』33115号16頁、査読無、2013年

奥山直司「南方熊楠における死生観と安心」龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンター研究叢書146-167頁、査読無、2013年

橋爪博幸「南方熊楠の自然観察記録」『熊楠 Works』42号51-53頁、査読無、2013年

安田忠典「海辺のクマガス」『熊楠 Works』42号57頁、査読無、2013年

安田忠典「海辺のクマガス」『熊楠 Works』41号42-43頁、査読無、2013年

松居竜五「南方熊楠と方丈記」『季刊文学』2012年春号、査読無

松居竜五「南方熊楠とは何者か」『民俗学』139号8-11頁、査読無、2012年

松居竜五「『十二支考』のなかの竜」『民俗学』139号48-53頁、査読無、2012年

松居竜五「当たる辰年 田原藤太竜宮入り

の譚」『熊楠 Works』40号10-20頁、査読無、2012年

松居竜五「アメリカ時代の南方熊楠」『熊楠 Works』39号23-30頁、査読無、2012年

安田忠典「ユージン・サンドウ」『熊楠 Works』40号、56-57頁、査読無、2012年

奥山直司「東西思想への視座 - 土宜法龍への書簡を中心に - 」『民俗学』25-28頁、査読無、2012年

松居竜五「南方熊楠の海外での活動に関する資料の収集と分析」『龍谷大学国際社会文化研究所 紀要』第13号8-11頁、査読無、2011年

[学会発表](計4件)

松居竜五「田辺時代の南方熊楠の海外との交流」、2013年9月29日、南方熊楠ゼミナール

安田忠典「熊楠と海 海から見た熊楠の足跡」、2013年9月29日、南方熊楠ゼミナール

松居竜五「南方熊楠の生きた近代」連続講座「近代国家とは何か」(招待講演)、2012年10月13日、松山市坂の上の雲ミュージアム

松居竜五「南方熊楠の神社合祀反対運動再考」日本国際文化学会、2012年7月8日、青山学院大学

[図書](計6件)

奥山直司・田中雅一編『コンタクト・ゾーンの人文学4 ポストコロニアル』晃洋書房、全303頁、2013年

韓国・慶尚大学校、慶南文化研究院 編『修験道 2012年修験道国際シンポジウム論文集』韓国・慶尚大学校、慶南文化研究院、全283頁、2012年

奥山直司・川村邦光・市川裕・大塚和夫・山中弘編『宗教の事典』朝倉出版、全919頁、2012年

奥山直司・松居竜五・田村義也編『南方熊楠とアジア』勉誠出版、135-144頁、2011年

松居竜五・田村義也・編『南方熊楠とアジア』勉誠出版、118-126頁、2011年

橋爪博幸・田村義也・松居竜五編『南方熊楠とアジア』勉誠出版、212-218頁、2011年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松居 竜五 (MATSUI, Ryugo)
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号：40238952

(2) 研究分担者

奥山 直司 (OKUYAMA, Naoji)
高野山大学・文学部・教授
研究者番号：50177193

橋爪 博幸 (HASHIZUME, Hiroyuki)
桐生大学短期大学部・短期大学部・講師
研究者番号：40412978

安田 忠典 (YASUDA, Tadanori)
関西大学・人間健康学部・准教授
研究者番号：90388413

(3) 連携研究者

小峯 和明 (KOMINE, Kazuaki)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：70127827

千本 英史 (CHIMOTO, Eiji)
奈良女子大学・文学部・教授
研究者番号：50188489

岩上 はる子 (IWAKAMI, Haruko)
滋賀大学・教育学部・教授
研究者番号：40184858

横山 茂雄 (YOKOYAMA, Shigeo)
奈良女子大学・人間文化研究科・教授
研究者番号：10144726